

石川工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	現代社会
科目基礎情報					
科目番号	15360	科目区分		一般 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数		履修単位: 1	
開設学科	機械工学科	対象学年		3	
開設期	前期	週時間数		2	
教科書/教材	『新政治・経済』（清水書院）				
担当教員	市嶋 聡之				
到達目標					
1. 近現代における政治の基本原理・機構を理解する。 2. 日本国憲法の内容や日本国憲法により定められた諸権利を理解する。 3. 政治の三権分立に関わるシステムを理解する。 4. 現代日本の政治における影響関係や問題点を説明できる。 5. 国際政治上における日本の役割を十分に把握する。 6. 近現代における経済の基本原理を理解する。 7. 経済を動かす企業や市場、金融に関するシステムを理解する。 8. 政府の財政と経済の関係性を把握する。 9. 経済の仕組みを把握し、論理的に説明できる。 10. 現代日本と国際社会が持つ政治・経済上の諸問題について表現できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	近現代における政治の基本原理・機構を正確に理解する。	近現代における政治の基本原理・機構を理解する。	近現代における政治の基本原理・機構を理解していない。		
評価項目2	日本国憲法の内容や日本国憲法により定められた諸権利を正確に理解する。	日本国憲法の内容や日本国憲法により定められた諸権利を理解する。	日本国憲法の内容や日本国憲法により定められた諸権利を理解していない。		
評価項目3	政治の三権分立に関わるシステムを正確に理解する。	政治の三権分立に関わるシステムを理解する。	政治の三権分立に関わるシステムを理解していない。		
評価項目4	現代日本の政治における影響関係や問題点を正確に説明できる。	現代日本の政治における影響関係や問題点を説明できる。	現代日本の政治における影響関係や問題点を説明できない。		
評価項目5	国際政治上における日本の役割を十分に把握する。	国際政治上における日本の役割を把握する。	国際政治上における日本の役割を十分に把握していない。		
評価項目6	近現代における経済の基本原理を正確に理解する。	近現代における経済の基本原理を理解する。	近現代における経済の基本原理を理解していない。		
評価項目7	経済を動かす企業や市場、金融に関するシステムを正確に理解する。	経済を動かす企業や市場、金融に関するシステムを理解する。	経済を動かす企業や市場、金融に関するシステムを理解していない。		
評価項目8	政府の財政と経済の関係性を正確に把握する。	政府の財政と経済の関係性を把握する。	政府の財政と経済の関係性を把握していない。		
評価項目9	経済の仕組みを正確に把握し、論理的に説明できる。	経済の仕組みを把握し、論理的に説明できる。	経済の仕組みを把握せず、論理的に説明できない。		
評価項目10	現代日本と国際社会が持つ政治・経済上の諸問題について正確に表現できる。	現代日本と国際社会が持つ政治・経済上の諸問題について表現できる。	現代日本と国際社会が持つ政治・経済上の諸問題について表現できない。		
学科の到達目標項目との関係					
本科学習目標 1 本科学習目標 3					
教育方法等					
概要	これからの技術者は、多様化する現代社会に対応し国際社会への理解を深める必要がある。本授業では、技術者として必要となる政治・経済・社会に関する基礎学力と専門的知識を身につけることを目指す。そして、このことを通じて、幅広い視野を持った技術者として社会や環境に配慮できるような能力を養う。				
授業の進め方・方法	関連科目：地理，倫理，歴史Ⅰ，歴史Ⅱ				
注意点	評価方法・評価基準 中間試験、期末試験を実施する。 中間試験（50％）、期末試験（50％） 成績の評価基準として50点以上を合格とする。 注意事項と学習上の助言： ・教科書および適宜配付するプリントは紛失しないよう必ず保存し、授業内容を確認すること。 ・現代社会を理解する際に必要となる時事問題についても随時説明するため、意識して日頃のニュースを新聞等で確認すること。				
テスト					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス・民主社会の基本原理	民主社会の基本原則が説明できる	
		2週	民主政治の思想史・世界の政治体制	民主政治の思想史・世界の政治体制が説明できる	
		3週	日本国憲法	日本国憲法について説明できる	
		4週	国会	国会について説明できる	
		5週	内閣・裁判所	内閣・裁判所について説明できる	
		6週	行政・地方自治	行政・地方自治について説明できる	
		7週	国際政治と日本	国際政治と日本について説明できる	
		8週	中間試験解説・経済思想史	経済思想史について説明できる	
	2ndQ	9週	市場・企業	市場・企業について説明できる	
		10週	物価・景気変動	物価・景気変動について説明できる	

		11週	財政の仕組み・社会保障制度	財政の仕組み・社会保障制度について説明できる
		12週	金融の仕組み	金融の仕組みについて説明できる
		13週	現代日本経済の問題点	現代日本経済の問題点について説明できる
		14週	現代日本と国際社会の関係	現代日本と国際社会の関係について説明できる
		15週	前期復習	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3	
				自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	
				過疎化、少子化など地方が抱える問題について認識し、地域社会に貢献するために科学技術が果たせる役割について説明できる。	3	
				知的財産の社会的意義や重要性の観点から、知的財産に関する基本的な事項を説明できる。	3	
				知的財産の獲得などで必要な新規アイデアを生み出す技法などについて説明できる。	3	
				技術者の社会的責任、社会規範や法令を守ること、企業内の法令順守(コンプライアンス)の重要性について説明できる。	3	
				技術者を目指す者として、諸外国の文化・慣習などを尊重し、それぞれの国や地域に適用される関係法令を守ることの重要性を把握している。	3	
分野横断的能力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	3	
				公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0